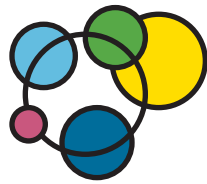


# そわにえ Soigner



第3号 定価200円

『Soigner (ソワニエ)』とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2005年9月20日発行

発行 / 東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)  
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17  
社団法人東京都看護協会内  
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 玉木先生より.....  | My Trip & Boom! |
| 第1回研修会報告...  | 委員会からの報告...     |
| ステーション紹介...  | 投稿募集、入会募集       |
| ブロック支援委員会... | 編集後記他.....      |



『巾着田の彼岸花』庄司 元さん撮影

## 生きがい

東京都医師会理事 玉木一弘



先日、たまたま縁あってNHKホールでの「大橋節夫ファイナル・ビッグコンサート」に行きました。

大橋節夫?誰?。経験豊富な訪問看護師さんでも、知っている方は少ないでしょう。終戦後の昭和20~30年代、スティール・ギターを取り入れたジャパニーズ・ハワイアン・ポップのヒットを連発して、一世を風靡したスターです。代表曲には「倅はここに・赤いレイ・グッバイホノルル」等があります。と、私もこの程度の予備知識で、NHKホールを目指しました。開演30分ほど前だったのですが、入り口は長蛇の列で、近づくと都会的で、個性豊かで、自由で、自己表現にあふれた装いに身を固めた、後期高齢者の追っかけファン風の方々の列でした。私の診療所や介護施設は東京の西の外れに在って、普段は日本のどの地方でも見かける都会的ではない普通のおじいちゃん、おばあちゃん達と接していますので、びっくりしました。コンサートが始まり、この大橋節夫さんがどのような人物かが段々解かってきました。非国民と言われながらジャズや洋楽を謳歌した多感な慶応ボーイで、海軍予備学生として戦争の真っ只中で青春を過ご



玉木先生と広報委員(天木・廣瀬・山中)

し、戦後の進駐軍の時代に、堰を切ったように才能を爆発させた音楽家であり、当時の若者にとっての本物のスターだったのです。加山雄三の大先輩かという感じです。80歳で、当時のままに同僚ミュージシャン達とステージに立ち、一人ひとりが紹介されましたが、今も現役として観客を魅了するためのそれぞれの健康法が紹介されました。集まったファンの方々を含め、介護保険的に言うと、自分自身の介護予防やリハビリテーションの明確な目的を設定して、人生を豊かに過ごすために、生活機能の維持向上に継続に取り組んでいる、こんなにも多くの高齢者を目撃し感動したのです。大橋さんはそのホームページで、母校慶応義塾の塾祖、福沢諭吉先生の言葉である「独立自尊」の精神に触れ、自分の主張と信念によって人生を歩むことに悔いを残さずという生き方を披露しています。さて私達の現場でまず大切なことは、患者・利用者さんの生きがいを聞き、意欲を引き出し、その目標に寄り添い、それを実現する為に協働することにあると思います。そして結果として尊厳ある生と死を支える最前線に立ち続けられれば幸いです。訪問看護師さん達は疲れ切っているって聞いていますが、大橋さんの「ファイナル」という形容詞はジョークで、これからもしたたかにファイナル・ビッグコンサートを定期的に行くとのことです。皆さん、私達も頑張りましょう!